

市内のある夫婦の
取り組みを紹介し
ます

夫婦一緒に家事・育児！

日本の男性の家事や育児に費やす時間は世界的に比べて最低です。特に共働き世帯の多い青森県内では、家事の分担は家庭円満の重要なカギとなります。そこで、市内の家族で家事や育児に取り組む夫婦を紹介し、夫婦のあり方、家族のあり方について考えます。最近、家事を協力するようになった40代の夫、そして妻、子ども3人、祖父母が同居している家族にお話を聞いてみました。

■以前は家事をどのようにしていましたか？

妻▶結婚後、10年間は核家族でした。出産を期に退職し、専業主婦として家事や育児を一人でやってきました。夫は育児にはよく協力し、子どもと遊ぶために公園などへ連れて行ってくれました。家事はどうしても手が離せないときに頼めばやってくれるという感じでした。

■家事を協力して行うきっかけは？

妻▶4年前に夫の両親と同居して、最初の一年は子育てや家事に影響ないように一日5時間のアルバイトをしていました。仕事を変えて夕方6時までのパートになったので家事が大変になりました。私は朝7時10分に家を出ます。それまでに夫の弁当を作り、朝食の準備に洗濯、台所の片付けをします。子どもたちに朝食を出し、その合間に洗濯物を干して、食べ終わると食器を洗って…と分刻みの毎日。でも、子どもたちが朝食を食べているときは、そばにいたいと思ったことがきっかけでした。夫に作業時間の自由が利く洗濯を丸投げしました。(笑)

夫▶結婚当初、家事は妻が全部やっていたので、そういうものだと思っていました。両親と同居し、妻がパートをするようになって、せっせとやりくりしていましたから。今思えば家事に無関心だったかも…。

■家事をやってみてどうでしたか？

夫▶以外と大変ですね。休日だけならいいけど、毎日となると大変です。どうしたら効率よくできるか、工夫するように心がけています。家事の大変さを家族に話していくことで、今では子どもは服を裏返しに脱がなくなったし、常に言い聞かせています。(笑)

■子ども達の反応はどうか？

妻▶家事は家族みんなでするものと理解していると思います。自分でできることはどんどんやっていけばいいと思います。子どもたちと一緒に楽しみながらやることで「やらされている」という気持ちにはならないようです。小1の息子は自分でご飯を盛り、食べた後は流しに下げます。たまには米も研ぎ、予約スイッチを押したり…。お風呂を洗ったり布団を敷いたり、私はとても助かっています。夫が家事をすることによって、「家事は母親がするもの」という認識を持たなくなると思います。

■祖父母の反応は？

妻▶夫の家事への協力には何も言いません。同居した頃、息子が自分でご飯を盛ろうとしたとき、祖母に「そんなことは男がするもんじゃ…」みたいなことを言われたとがありました。私はいろいろな価値観や考え方があっていいと思っているので、子どもに「おばあちゃんの時代はそうだったらいいよ」と話します。今は子どもたちが食器洗いなどを手伝ってくれると誉めています。

■夫婦一緒に家事や育児を行うことで難しいと感じたことは？

夫▶やはり仕事との両立です。仕事を優先にしないと会社での立場もあるので、社会的なことを優先してしまいます。子どもが急に熱を出したり、入院したりすると妻にまかせます。会社で男性が療育休暇や育児休暇をとった人はいないと思います。介護休暇だって聞いたことがありません。休暇を取ると「わがまま」と思われてリストラのメンバーにされるかも…。

妻▶パート先で、子どもの急病で休むと周りに迷惑をかけるのでつらいです。もう、子どもにも会社にも謝りながら働いています。(笑) もっと子育て世代に理解のある社会になって欲しいです。私たちは未来の担い手となる子どもたちを育てているのですから。子どもたちが成長し、働く頃にはワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を実現している企業を勧めます。



「ぜひ、我が家取材して」という方はゆっパル編集部までご連絡ください。

連絡先 十和田市総務課広報男女参画係

☎235111内線155